

1 単元 PROGRAM 5 *Sushi-Go-Around in the World*

2 単元の目標

- (1) 言語活動に積極的に参加し、相手とコミュニケーションをとろうとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 言語材料を用いて、日本の文化を簡単に紹介することができる。(外国語表現の能力)
- (3) 内容を理解し、本文に関する英語の質問に答えることができる。(外国語理解の能力)
- (4) 主語＋動詞＋目的語＋補語の文と間接疑問文の用法を身に付け、運用している。
(言語や文化についての知識・理解)

3 指導にあたって

(1) 教材観

この単元では、回転寿司を取り上げながら、「食」に関するテーマを中心に、食を通じた異文化理解を促進したり、さらに日本文化について英語で表現したりすることをねらいとしている。言語材料としては、[主語＋動詞＋目的語＋補語]の文や間接疑問文を取り扱っており、各セクションの中で、「ものの呼び方」や「～を幸せにする」といった表現を身に付けるという学習のめあてを設定している。

(2) 生徒の実態 <男子*名 女子*名 計*名>

【学級アンケートから】 第*学年*組 *名（平成26年9月下旬実施）※（ ）内は、回答数

	そう思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
英語（英語の学習）が好きである	*%（*）	*%（*）	*%（*）	*%（*）
英語の授業に積極的だと思う	*%（*）	*%（*）	*%（*）	*%（*）
英語の授業内容を理解している	*%（*）	*%（*）	*%（*）	*%（*）

生徒のアンケートにも示されているように、*割以上の生徒が授業の理解度に不安を抱えており、この数値は大きな問題だと捉えており、このことが、英語の授業に積極的になれない生徒が多い理由のひとつであると考えている。こうした実態を受けて、これまで授業の中では音読の重要性を説き、時間をかけて教科書の音読などを行ってきた。また、英語の課題に対して、集中して取り組んだり、粘り強く取り組んだりすることができない生徒が少なからずおり、机間指導を丁寧に行うことを心掛けて指導を行ってきた。

(3) 指導観

今年度の授業づくりのテーマを「生徒の学ぶ意欲に繋がる学習活動 ー帯活動の充実を通してー」と設定した。上記に述べた実態を受けて、本校でこれまで実践されてきた「My Plan」という単元で使用する教材の冊子を用いて、帯活動と言語活動の充実を図っていきたい。その中で、生徒が「できた」「力が伸びた」と実感することができるようにし、そうした実感の積み重ねにより、授業に対する積極的な態度や集中して課題に取り組む姿勢を培っていきたい。

4 指導計画（7時間扱い）

時	学 習 活 動	関	表	理	言	評 価 計 画
						評 価 規 準
1	・[call+人+名前]の理解と運用	○			◎	人を～と呼ぶことができる。
2	・Program 5-1 の読み取り			◎	○	本文に関する質問に答えられる。
3 【本時】	・[make+人+～]の理解と運用	○			◎	人を～にする、の表現を運用できる。
4	・Program 5-2 の読み取り			◎	○	本文に関する質問に答えられる。
5	・間接疑問文の理解と運用	○			◎	間接疑問文を理解する。
6	・Program 5-3 の読み取り			◎	○	本文に関する質問に答えられる。
7	・日本の文化を紹介	○	◎			英語で日本文化を紹介する。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・言語活動に積極的に参加し、コミュニケーションをとろうとしている。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・「～を幸せにする (make+目的語+補語)」の表現を理解し、運用することができる。
(言語や文化についての知識・理解)

(2) 準備・資料

My Plan (自作補助教材), ワークシート, 生徒提示用ピクチャーカード, 学習カルテ

(3) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点 (○は個への配慮)・評価
<p>1 既習内容を用いてウォームアップをする。 (1) LET'S TALK (2) THE CHANTS (3) SUPER INPUT</p> <p>2 オーラルイントロダクションを聞く。 T: What do you like to do? S: I like soccer. T: Oh, you like soccer. So playing soccer makes you happy.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短い時間でテンポよく、できるだけ多くの英語を話すようにタイマーを用いて指導する。 ○活動が滞っているペアには、机間指導を行い、ペア活動を支援し、自信をもたせる。 ・イラストを用いて、表現の導入を行い、生徒とのインタラクションの中から、本時の基本文を導きだしたい。 ・何種類かの例文を提示しつつ、口頭でのパターンプラクティスへと入っていく。
<p>3 本時の学習内容を確認する。 「～を幸せにする」などの表現を言うことができる。</p> <p>4 英語で「自分を幸せにしてくれるもの」を述べ、相手に「自分を幸せにしてくれるもの」を聞く。(ワークシート) (1) 「自分を幸せにしてくれるもの」を書く。 I like tennis. So tennis <u>makes me happy</u>. (2) グループの中で、友達に「自分を幸せにしてくれるもの」をインタビューし、ワークシートにメモする。 A: What makes you happy? B: Tennis makes me happy.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・make の用法を確認する中で、目的語+補語と展開することに着目するよう指導する。 ・内容について悩む生徒には、例文を与えて、例文をもとに活動に参加するよう指導する。 ○グループ活動に参加しない(できない)生徒については、グループ内でのかかわりの中で活動を進められるよう支援する。 ○早くできた生徒は、動名詞や不定詞などを(主語として)使用したり、一文付け加えたりするよう伝える。 ・日本語は使わず、モデルの会話を参考に英語でやり取りするよう指示し、机間指導する。 ・ワークシートの内容については、相互に確認しあったり、教員のチェックを受けたりするよう伝える。
<p>(4) 何名かの生徒がインタビューの内容を発表する。</p>	<p>(評) 言語活動に積極的に参加し、コミュニケーションをとろうとしたか。(ワークシート・観察)</p> <p>(評) 「～を幸せにする」などの表現を運用することができる。(発表・ワークシート・観察)</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・make の用法について、生徒の理解を確認しながら、黒板を用いてまとめる。
<p>6 学習カルテの記入をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の自己の取組を振り返り、次時への意識の継続を促す。